

礼拝 2021年8月22日(日)
題 『安心して行きなさい』
テキスト：マルコ5：21～34節

親愛なる皆さん、おはようございます。
今日の聖書の個所には、最初に「ヤイロの娘」のことが出て来ています。
そして「イエスの服に触れる女」の話があります。
その後、来週学びますが、「ヤイロの娘」の癒しの出来事が記されています。
いずれもイエスがなされた病気に苦しむ人の癒しの物語です。
共に学びたいと思います。

◆ヤイロの娘とイエスの服に触れる女

21:イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

イエスと弟子たちは、ゲラサ人の地からガリラヤ湖を小舟で渡って再びガリラヤ地方に戻って来られたのです。おそらく活動の拠点であったカファルナムの町であったと思われます。するとイエスを待っていた大勢の群衆がそばに集まって来ました。イエスは湖のほとりに弟子たちと共におられました。

そこに、

22:会堂長の一人でヤイロという名の人に来て、イエスを見ると足もと

にひれ伏して、しきりに願ったのです。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」と。

この会堂長とは、ユダヤ教の会堂・シナゴグの管理責任者のような人でした。約2000年前当時のユダヤ地方の宗教であるユダヤ教の会堂は各地にありました。礼拝はもちろん、人々や子どもたちの教育の場、相談の場ともなっていたようです。

その会堂長の幼い娘が、病気で危篤状態だったのです。イエスに癒しを願いに来たのです。イエスさまが病人を癒されることは、その地方では有名になっていたのです。この会堂長は、イエスの癒しの力を信頼していたようです。そして「どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」と懇願したのです。わたしたちはどうでしょうか？イエスを信頼することが問われます。

イエスさまは、それを聞き、ただちにヤイロと一緒に出かけに行かれます。

その時、大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来たのです。

さて、その後、この大勢の群衆の中にいた癒しを求めていたひとりの女性の癒しの出来事が起こります。この話はマタイによる福音書にも、ルカによる福音書にも記されています。それだけ有名な話として伝わっていたのでしょう。確かに一度聞いたら忘れられない感動的な話だと思います。

「イエスの服に触れる女」の話です。わたしも感銘を受けた話です。

「25:さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。」

「出血の止まらない女」、年齢は分かりませんが、おそらく成人していた人で、今日で言えば婦人科系の病で長く、12年間も苦しんで来ていた人です。この12という数字は長い年月を表しています。

このような病は律法では不浄とされ、さわる者も不浄な者とされたのです。

この女性は、多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであつたと言われています。

ここに彼女の苦しみが凝縮されているように思えます。

癒してくれるはずの医者から苦しめられる。もちろん医者も必要な貴い職業ですが絶対ではないことはわたしたちも知っています。ただ「ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであつた。」というのは、悲しく、辛く厳しい現実です。この女性にとっても家族にとってもどんなに辛いことだったのでしょうか。

ここから、

この一人の女性とイエスとの感動的な出会い、出来事が起こる、起こったのです。これは神さまの憐みであり、イエスの愛によって起こったのです。

27:イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。

28:「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。

聖書にあるように、この女性はイエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、イエスに会いに来ていたのです。後ろからイエスの服に触れたのです。

当時の服には四方に四つの房がついていたということで、彼女は後ろからこの房に触れたのかもしれませんが。

この彼女の行いが奇跡のスタートです。みなさん、日曜日に礼拝に来ることは、イエスに会いにくることではないかと思うのです。主イエスは、今も肉眼の目には目ませんが、清き霊として礼拝の中に存在してくださっているのです。

礼拝は、わたしたちの人生に奇跡を生むスタートであることを覚えておきたい

のです。

イエスと神を信頼し心から呼び求め、切に願っていることは、隠さず何であっても正直に願いましょう。そうして良いのです。もし、わたしたちの願いがあまりにも自分勝手でおかしかったら、神さまは愛なる方で、最善を成してくださる方ですから、御霊によって、その都度、訂正して導いてくださるでしょう。

わたしたちは、切実な願いを主の前に出せばよいのです。

この女性は群衆の中から、後ろからイエスの服に触れました。

「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。

イエスに対する信頼と、女性の切なる思いをくみ取ることができます。

すると不思議なことに、

「すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた」と29節にあります。女性にとっての癒しが起こったのです。

病気がいやされたことを体を感じた。現在の治療行為はほとんどは数値で確認できると思われませんが、癒されたことは、基本、当事者が体で感じるのだと思います。「癒し」という漢字は、難しい字ですが、漢字の成りたちは、諸説あるようですが、漢文学者の白川静（しらかわしずか）の「字統」によれば、この字の成り立ちは「針で脳血を、つまり膿や血、病を、盤つまり受け皿に移す形で、治癒の方法を示しているようです。それに「心」という文字が加わっているのです。つまり、身体の悪い部分を取って、「病気が治る」を意味するという字の成り立ちということです。それに心が加えられて癒されるのです。

30:イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中

で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。

聖書では、イエスさまの癒しの業には、いつも「自分の内から力が出ていく」ということがついているのです。イエスの癒しには、常にイエスから愛が一方的に注ぎ出されているのです。究極的な癒しはイエスの十字架の愛によって成就し完了する、完了したのです。

31:そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」

イエスのそばにいた弟子たちには、癒しの秘密は分からなかったのです。

弟子たちは、肉眼の目で見える事しか理解できなかったのです。心の目、信仰の目で見ることの大切さを思わされます。

32:しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておら

れた。イエスはいつも、群衆の中でも、自分を今必要としている一人を探しておられるのです。あたかも迷子の羊を探し回る羊飼いのようです。そして見つけ出したら大喜びされるのです。

イエスこそ、まことの羊飼いであることを私たちは教えられ知っています。

33:女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。

34:イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」

イエスの前に、自分を正直に告白したこの女性は、これからは人の前にも安心して自分を表していけるのです。これがイエスによって救われた者たちの解放された自由な生き方だとわたしには思えるのです。

伝説ではこの女性はベロニカとも言われ、イエスがゴルゴタの丘に十字架を背負って歩んだ時、近づいて顔を拭いてあげた女性とも言われます。

わたしたちも、もはや群衆ではなく、イエスに呼び出され、癒され自由にされた一人ひとりとして、神と人の前に、天に向かって、すくっと立つ一本の木のように生きる者でありたいと願います。

みなさまの上に、主に平安を祈ります。

◆ヤイロの娘とイエスの服に触れる女

21:イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

22:会堂長の一人でヤイロという名の人に来て、イエスを見ると足もとにひれ伏して、

23:しきりに願った。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」

24:そこで、イエスはヤイロと一緒に出かけte行かれた。大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。

25:さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。

26:多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであつた。

27:イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。

28:「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。

29:すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。

30:イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。

31:そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」

32:しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。

33:女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。

34:イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」